

駆け出しの女騎士が  
魔物の群れを食い止め  
出世を夢見るけど

世の中そんなに甘くないお話

2014/03/10

Var. 1. 03

シナリオ…さんきち

サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

## ■登場人物

女騎士 19歳 ♀

### 駆け出しの女騎士

もともとは王国の近隣に住む村の女の子だったが、村に訪れた騎士団にいた女騎士にあこがれて自分も騎士になることを夢見る。

王国の兵士として働き、騎士団の試験に合格し、念願の騎士になることが出来た。初めての任務で魔物の討伐に騎士団で出撃するが、団長からは足手まといだから、後で待機するように言われる。

武術・剣術は得意だが、ドジで失敗も多い。

明るく気さくな性格で、騎士の仲間達からは可愛がられている。

ただし、団長には、ただの役立たずに見られている。

「 撤退戦開始

（風が吹き抜ける音）

「うん、ここならちょうどいいわ。戦いやすい」

「両側にそびえる山、そして狭い一本道……」

「追ってくる魔物たちを迎え討つにはちょうどいい地形ね」

「私から言いだした事だけど、騎士になって初めての戦いが騎士団の撤退戦——」

「しかもしんがりなんてね」

「ちよっと危ない、かな？」

「——あ、ううん別に危なくはないよね。これは反対にチャンスだと思うし……」

「私、騎士になったばかりで何も武勲をあげてないから……」

「うん、やっぱり出世のチャンスだわ！」

「ここで魔物すべてを倒してしまえば——騎士団長になれるかも！」

「ふふ、ふふふ……やばい、興奮してきた」

「出世がかかっているって考えたら、ものすごくやる気出てきちゃった！」

「さあ来い魔物ども！ この剣の錆となるがいい！」

（剣を抜く音）

「ん……ふふ、ふふふ！ この剣を抜く姿、そして振り上げた腕の角度！」

「いま私、とってもカッコいい！ すごく強そう！ 負ける気がしないわ！」

「団長はあんな事言ってたけど——」

「えっと、しんがりは命を捨てるようなものだ、だったかしら？」

「ふふ、たかが魔物じゃない、さくさく——と倒してあげるわ！ だって私強いもん！」

「そして私は出世するの！ 騎士団長になって——」

「あ、もしかしたら將軍になれるかも！？ やだ、姫騎士將軍って呼ばれちゃうかも♪」

「……ん？ 向こうから何か近づいてくる音がするわね」

「ずりずり、何か引きずるような音は……フフフ、ようやく魔物の登場ってワケね？」

「かかって来なさい魔物ども！ 私の出世の為にその命を捧げるのよ！」

「さあ先手必勝！ 一撃でしとめてあげ——うっ！？」

「しよ、触手のカタマリじゃない!? 嘘、こんな魔物が来るなんて聞いてないわよ!」

「やばっ、ちよっと距離とって様子見ないと……」

「うう、どうやって倒そうかしら……」

「人型の魔物が出てくるとばかり思ってたから、剣でスパッとサクッと倒すつもりだったのに……」

「と、とりあえず相手の動きは遅いようだから……」

「そうね、距離をとって……どうやって倒すか考えないとダメね。まずはよく観察して……」

「うっ、気持ち悪い動きしてる……触手がすべて粘液でヌルヌルして黒光りしてるわ」

「それにこのにおい……臭い感じの、うーん……イカ臭い? 変な匂いするわね……」

「それにあのヌメヌメした動き……見ているだけで背筋がゾワゾワするわ」

「うう……斬りつけたら剣が汚れるだろうなあ……戦いたくないなあ……」

「うっ、近づいてきた……しんがりを務めるんだから、ここで食い止めないとダメよね」

「ガンバレ私、戦え私! 触手を倒して出世するのよ!」

(剣をかまえる音)

「じ、じりじり近づいてくるわね……」

「あ、そういえば、騎士団の先輩が触手系の魔物について説明してくれたことあったわね」

「確か……メチャクチャ力が強いから、捕まったら危険だとか……」

「あと、身体の柔らかいところを狙ってくるから、攻撃されたらうまくかわさないとマズイとか……言ってたかな?」

「柔らかいところって……おっぱいとか?」

「騎士団の鎧はビキニタイプで露出高いから、お腹も太ももまる見えだからマズイかも……」

「あ、でも狙ってくるって、殴りつけるって事よね?」

「お腹狙われるって事かしら?」

「まあ触手は力は強くても動き遅いし、腹パンくらいじゃ私負けないし!」

「殴られる前に、そのヌルヌルの触手全部切り落とすわ! てりやーっ!!」

(斬る音)

「よし、触手一本切り落としたわ」

「どう、怯んだ(ひるんだ)でしょ——え? ぜんぜん元気じゃない!?」

「まるで痛みを感じてないような……」

「イソギンチャクみたいにブワッて触手が広がってる……」

「もしかして……斬りつけて怒らせちゃった?」

「わ、わわっ、触手振りまわしてきた!? でもそんな攻撃……喰らわないわよ!」

（斬る音）

「くっ、切っても切っても……きりがいいわね！」

「でも負けないんだから、触手なんかに——うっ！？ あ、足！？」

「いや、足首掴んでる！ 急いで切り落とさないと！」

（斬る音）

「よしっ、自由になったわ。それにしても生暖かくて気持ち悪い感触ね……」

「ネバネバの粘液が足にからまつてるし……」

「うわっ、また触手が足もとに伸びてくる！？ もう、いい加減にしなさい！」

（斬る音）

「ふう、危なかった」

「ここで自由を奪われたらマズイわね、足を狙ってくる触手を全て切り落としていけば——」

「えっ、ちよ、ちよっと多すぎ！ 触手の洪水が足もとに——！！」

「う、うわっ、やめて、足首が完全に触手に飲まれて——」

「くっ、これじゃ動けないじゃない！ ま、マズイわ、触手が殴ろうとして——」

「この角度はお腹狙ってる！？ よ、避（よ）けられない、お腹殴られる……！！」

（お腹殴られる音、ドボッ）

「ぐっ！！ げほっ……お、思いきりお腹に喰らっちゃった……」

「力強すぎい、お腹に力入れたのに、めり込んじゃった……」

「で、でも……まだ腕は自由だから、触手を叩き切ればいいのよ」

「まだ両腕は自由だから——あっ、う、腕に絡みついてくる！？」

「嘘、利き腕に——剣がふれなくなっちゃう！」

「う、ぐっ……手首に絡みついてきて……締めつけてくるっ……」

「ち、力強すぎい……握力がなくなる……ああっ！！」

「て、手首が折れちゃう……力が、入らなくなっ……」

「け、剣が落ちちゃう、ダメ……ああっ……！！」

（剣が落ちる音）

「し、しまった……命より大切な剣を落としてしまうなんて……！！」

「な、なんとか拾わないと……負けちゃう、触手に負けちゃう……！！」

「うううっ、手を、伸ばせば、何とか……と、届きそ、う……ひあっ！？」

「触手が顔に近づいてきて……いやっ、臭いんだからどきなさい！」

「う、ぶっ……！ く、唇に触ろうとしてくる……！！」

「うふっ、くっ……思い出したわ、触手は女の子の穴が好きだって……」

「それを聞いた時は意味がわからなかったけど、まさか穴って……く、口の事かしら……」

「やめっ……う、ぶっ……」

「やっぱり口を狙ってきてるみたいね、顔を横に振れば少しは時間が稼げるけど……」

「その間に剣を……！」

「うう……もうちょっとで落ちた剣に指先が届きそう……」

「ひっ、い……！！ 執拗（しつよう）に口を狙ってくる……！」

「い、いやっ、唇に粘液がついただけでも嫌なのに、こんなの口の中に入ったら気持ち悪すぎて死んじゃう……」

「ひいっ、くっ……！」

「口元を狙ってきて、ほっぺたに触手の先っぽが何度も押しつけられて……」

「まるで……早く口開けろって言ってるみたい……」

「うあっ、ぶ……！！ く、唇に触られた……ぐりぐり触手が押しつけられて……」

「ぜっ、絶対口は開けないから……んーっ、んっ、ぶ……」

「くっ、だ、だめ……こじ開けて……んむぐっ！？」

「は、入っちゃう……んぶっ、ぐっ……ぢゅっ、ぶぢゅっ……ぷっ……ぷはあああ！！」

「く、口の中、触手の先でぐりぐりされちゃったあ……うぶっ、えほっ、けほっ！！」

「うえええ、喉の奥にどぶって汁だしてくるし」

「もう、苦い汁、飲んじやったじゃない……最悪だわ、気持ち悪い……」

「うう、喉の奥にネバネバした粘液が引っかかっている感じ……」

「もうちよつと奥まで突っこまれてたら、おえってなるところだったわ……」

「ああもう、ぺっ、ぺっ……口の周り、ドロドロになっちゃった……」

「また口の中に突っこまれたら、もつと奥まで触手が入ってきそうね」

「触手の先っぽが私の舌をグニュウツと弄（いじ）ってきたし……」

「柔らかい粘膜を責めるのが好きなのかしら」

「お腹の中にまで触手の先を突っこんできて、内側から責めるつもりとか……」

「ううっ、また口を探して触手が蠢（うごめ）いてる……」

「何とか引きはがさないと、幸い片手は自由だから……」

「くううううっ……うっ、う……離れないっ……手首に絡まっている触手……」

「ぎゅちり締めつけてて動かないわ。それに粘液で滑っちゃうし、んっ……」

「うぶ！？ うえ、けほっ、けほっ！！」

「んぐっ……な、なに？ お腹の奥が急に熱く……顔が火照ってくる感じも……？」

「う、嘘、手足が少し痺れる……ううん、震える感じがして力が……は、入らない！？」

「まさか触手の粘液を飲んでしまったから！？ もしかして毒……そ、そんな！」

「吐きださないと……口の中に手を突っこめば——うあっ！」

「反対の手にも触手が……！ こ、これじゃあ粘液を吐きだす事が出来ない……」

「ど、どうしよう……あっ、だったらもう一度、触手がお腹を殴ってくれれば……！」

「お腹責められるのは苦しくて嫌だけど、早く吐きださないと……！」

（カチャカチャという音）

「え、鎧を脱がしてくる！？ ち、違う鎧じゃなくて——」

「自由を奪ったから殴ってくれと思ったのに——」

「い、いや、鎧の留め金を触手が外していく!? き、器用すぎるでしょ!？」

「ダメ、やめて見えちゃう、おっぱい見えちゃうから……!！」

(鎧がちゃんと落ちる音)

「ああ……鎧が外れちゃった……お、おっぱいまる見えにつ、隠せないのに……」

「は、恥ずかしい……」

「う、あ……!?! 触手がうねりながらおっぱいに近づいてくる……」

「こ、心なしか嬉しそうに見えるのは、気のせいかしら……」

「いや、触られる、触られちゃう……触手が——ううっ!! 触ってきた……」

「触手の先っぽで、おっぱいをつついてくる……ひあっ……!」

「おっぱいの下からゆっくり撫でてきて……ぞ、ぞくぞくしちゃう……」

「く、触手のくせに優しく触ってくるなんて……まるで感じさせようとするみたい……」

「肌の上を滑ってくると、声が出ちゃいそう……」

「ううう、う……い、いや……声なんて出さないんだから……んっ!」

「ぜ、ぜんぜん気持ちよくなんか、ないんだからあ……あはっ……!！」

「や、やばいかも……触手のくせに、感じやすいところ的確に責めてくるんだもの……」

「このまま感度あげられたら、触手相手に悶(もだ)えちゃう……」

「ひっ、い、いや……! ち、乳首の近くまさぐってる……!」

「やめて、そんなギリギリのところ責められたら、さ、触られたくなるじゃない……」

「い、イジワルしないで……!」

「あ……あ、はっ……あっ、あんっ……ハッ!？」

「ち、違う、いま変な声出ちゃったけど、悶えてないんだから……!」

「おっぱい責められても、乳首のギリギリのところ弄(いじ)られても、き、気持ちよくな  
んでないんだから……!」

「触手に触られるなんて、す、すごく気持ち悪くてえ……ふっ、ふああ……」

「や、やば……乳首ギリギリのところ責められ、て……」

「お腹までピクピクしちゃうって……んっ、あああ……!！」

「し、触手の先っぽが大きく広がって……やだ、乳首をずっぽり銜(くわ)え込んでくる……」

「んっ、チュクチュク吸い始めてるうう……! 乳首ばかり責めてくるうう……!」

「ふ、ふぎゅっ……我慢、我慢……くうう……!！」

「だ、大丈夫うう、き、気持ちよくなって、へう……!」

「な、ないんだかりやつ、あ……あひっ……♪」

「やばっ、涎(よだれ)でちゃう……乳首すごく固く、なってるっばいし……」

「足も、震えちゃって……あっ、あ……ダメ、変な声……でそう……」

「気を抜いたら、まずいい……んっ……」

「くっ、ぐ……うううう……くっ、ぷはっ!! い、息止めても無理、かも……」  
「変な声でちゃう、お腹の下の方まで、気持ちいいのがくるうう……!!」  
「ぷっ、ぷはっ……!! あっ、ああ……吸ってる、触手が、乳首すごく吸ってるうう……!!」  
「やだ、か、感じちゃってる、どうしよう、触手なんか、につ、私……私……!!」  
「う、うう……我慢しなきゃ、声出したら負けを、認める事に……う、あ……!!」  
「これは、く、屈辱なのよ、触手ごときに、こんな……」  
「喘いじやうなんて、屈辱でしか……んん……!!」  
「くっ……ぐっ……ぷっ、あは……!! あ、あれ……? 触手が離れた……?」  
「耐えきったのね……よかった……」  
「今のかなり危なかったわ、あれ以上乳首責められたら、もっと欲しがっちゃうから……」  
「でもまだ危機的状況、なのよね……何とか触手を振りほどかないと……」  
「くっ、パンツの中がヌルヌルになってるう……」  
「もう、乳首責めて満足したでしょ? いい加減離れなさいよ……」  
「え……? 今度は足の方に触手が……あ、足じゃない!?」  
「太ももから上に伸びて……まさか、パンツの方に!?!」  
「鎧脱がしたからまさかパンツまで……!?!」  
「ひ、あ……! 触手がパンツ脱がしてくる……!!」  
「やめて、パンツだけは……ぬ、脱がさないで……あっ!!」  
「ぬ、脱がされちゃった……パンツまで脱がされちゃった……」  
「屈辱すぎ、こんな、こんな触手ごときに……!」  
「うう、それにパンツの中ぐちゅぐちゅになってる……」  
「アソコが濡れて、粘っこい糸引いちやってるし……」  
「ヒクヒクしちやってるのも感じるし……」  
「こ、この触手めっ、いい加減にしない、正々堂々勝負しなさいよ」  
「こんな……こんな恥ずかしい事ばかりして、これだから魔物は嫌い……」  
「うわっ、ちよっと待って太ももの内側を——触手がじりじり昇ってくる!?!」  
「待って、そこおまんこに近いから……あ、垂れた愛液をぺちやぺちや弄(いじ)って  
る!?!」  
「ダメ、ダメ……いまおまんこ触られたら……」  
「あっ、ああ……!! 触手がおまんこを、さ、触ってくる……!!」  
「う、あ……でも、このさわり方……軽く触ってくる感じ……」  
「おまんこの入り口をゆっくり、撫でてくる……焦(じ)らしてる……」  
「これ絶対、焦(じ)らしてるう……!!」  
「そんなさわり方されたら、おまんこをすごく意識しちゃう……」  
「ヒクヒクしちやって、お腹の奥がすごく熱くなってきた……」  
「トロトロになっちゃうじゃない……」



「はあああ、はあああ……やだ、突っこんで欲しいなんて思っちゃう……」  
「ほ、欲しくなっちゃうから……」  
「もうやめて、本当にまずいから、もう、我慢できない……あっ!!」  
「触手が、おまんこに張りついてきた……!!?」  
「先っぽじゃなくて、べったり……スジにそって……」  
「うああ、ねちよって音がしてる、私のおまんこからすぐエッチな音してる……」  
「んあ……あつ、擦（こす）ってきた、おまんこ擦（こす）ってきたああ……」  
「やめて、スジにそって擦（こす）られると、腰が動いちゃう……」  
「我慢出来ないから、腰が……腰が、動いちゃうの……!!」  
「ダメ、腰が前後に動いちゃう……」  
「触手におまんこ擦（こす）りつけて、いっぱい楽しみたくなっちゃう……」  
「あつ、あ……いや、腰振っちゃうと、音する……くちゅくちゅ、音しちゃう……」  
「ふっ、あああ……!!」  
「お尻に向かって引つ張られると、ク、クリトリスに感じちゃう……!!」  
「それっ、やばいよ……き、気持ちいい……」  
「お尻の、お尻の穴近くまで……触手がヌルヌル責めてきてる……」  
「じゅくじゅく音して、は、恥ずかしいけど……気持ちいい……」  
「悔しいけど、こんな、エッチにされると……ううう……く、悔しい……」  
「うあつ、あつ、おまんこ擦（こす）られる、触手が、ちようにいい柔らかさで……」  
「おまんこの入り口を擦（こす）ってくるうう……!!」  
「はっ……あつ、声でちゃう、大きな声、いっぱいでちゃううう……!!」  
「ひいつ、う……!! ダメっ、ダメ、そこっ、一番敏感なところ——」  
「ク、クリトリスだし、ダメっ、触手の先っぽで、つかないでっ……」  
「あつ、あ……い、ぐううっ……!!」  
「くっ……うっ、ぐうっ……! らめっ、声、でちゃううう……!!」  
「触手の先っぽで、クリトリス、びんびんつかないれっ、ひっ……あぐっ……!!」  
「うっ、ううう……ぐっ……」  
「も、もうダメ、クリトリス責められたら、こ、声……我慢できなく——!!」  
「ぐっ……ううう……!! んっ……ぷはあああ!!」  
「はああ、はああ……あ、あれ? 触手が離れた……?」  
「途中なのに、去っていく……」  
「そんな、生殺しじゃないっ——って違う、なに考えてるの私」  
「気持ちよかったワケないじゃない! あんな、は、恥ずかしい事……絶対嫌なんだから!」  
「き、気持ちよくなんなかったんだから!」  
「もっとして欲しいなんて、す、少しも思っでなんかないんだから……」

「うう……それよりも、抵抗も何も出来ずにただ辱められた感じ……」

「悔しすぎるわ……でも悔しがってばかりもいられないわね……」

「ひとまず体勢を整えないと……触手は騎士団を追っていったわ」

「でもあいつの動きは遅いから、今から追えばすぐに追いつくはず……」

「そして後ろからかかればきつと倒せるはずよ。今度は失敗なんてしないんだから……!」

「よし、早く鎧を着なくちゃ……うわ、身体中粘液でべたべたする……」

「敏感なところ責めまくられたから、まだ乳首固くなったままだし……」

「これ、鎧着れないかも？ 歩くだけで乳首がこすれるかもしれないし……」

「でも裸のままじゃ恥ずかしいし……」

「それにまだ足がふわふわしてる感じ……腰も力が入らないし、走れるかな……」

「足首まで粘液が——うわっ、おまんこがまだヒクヒクしちゃってる……」

「あ、いけないいけない。アソコを意識しちゃったら、疼いてきちゃうし……」

「えっとパンツは、パンツは……あ、あんなところに落っこちてる」

「遠くに放り投げすぎよ。触手め、絶対倒してやるんだから——え？」

「足音……？」

「向こうから何か近づいてくるの！？ まさか別の魔物！？」

「嘘、まだ気持ちいいのが残って身体がいうことときかないのに、それに鎧も着てないのに——」

「ひっ……!! こ、今度はオーク……」

「うっ、鼻息荒くて目がギラギラしてる……すぐくやる気っぽい様子ね」

「口から涎まで垂らして、いやらしい顔して……」

「鎧は……着ているヒマはないわね」

「オークは戦う気満々みたいだし……剣はどこに——」

「えっ！？ ちょ、ちよつと待って、剣が——あ、あんな遠いところに!？」

「拾うのは間に合わない……こ、こうなったらオークの鼻面にパンチを叩きこむ!」

「素手でも戦えるんだから!」

「てりや——っ!!」

(殴られる音)

「うっ!! おええええ……私のパンチを、払いのけ、て……」

「お腹にカウンター、入れてくるなんて……」

「ごほっ……触手にやられて、力が入らないから……腹筋で、受けとめきれない……」

「思いきり、めり込んできて……内臓で、受けちゃった……」

(どさっと倒れる音)

「けほっ……けほっ! だ、だめ……」

「気持ちいいの残ってたから、苦しいのと痛いのが混じって、お腹がイタ気持ちいい……」

「けほっ……!!」

「うつ、あ……!!」

「オークが上から押さえこんできて……やめて、抵抗するにも力が……」

「ひ、卑怯な、正々堂々勝負したら……負けるはずなのに……」

「ちよ、ちよっと……ダメ、足掴（あしつかま）まないで、いや、足……ひ、広げる……」

「いや、見えちゃう、おまんこ見えちゃうから……あつ、い、いやっ……!!」

「ああつ……足広げられる……ダメ、力が入らない……」

「お腹やられて、気持ちいいのも回っちゃって……足に力が入らない……」

「あ、足が……完全広げられちゃった……ひっ、い、いや、まる見えになっちゃう……」

「濡れてるから、おまんこ濡れちゃってるから見ないでえ……」

「ひっ……!! オークが鼻鳴らして、私のおまんこ見ている……」

「す、すぐくじろじろ見てるう……」

「あつ、か、顔近づけてくる!? 嘘、な、なにするつもり……」

「嬉しそうに鼻を鳴らして……おまんこの匂い、嗅いでる……!!」

「ダメ、おまんこの匂い嗅がないで、ヒクヒクしちゃってるし……」

「触手に責められた快感が残ってるし……」

「濡れてるから、ダメ……においするから、だめ……」

「あつ、あ、オークの口が、すぐく近い……」

「ダメっ、ついちゃう、おまんこに口が……ああつ!!」

（じゅるるっとなめる音）

「す、吸ってる……ううっ……!!?」

「おまんこに口当てて、じゅるじゅる吸ってるうう……!!」

「いや、いや吸わないで、おまんこに口つけないでええ!!」

（じゅるるっとなめる音）

「うつ、あ……吸ってる、音立ててオークが、おまんこのお汁、吸ってるうう……」

「ダメ、吸わないで、そんな激しくされたら……」

「あつ、あ……いやっ、おまんこの奥まで響く……」

「じゅるじゅるする音が、響いてきちゃううう……!!」

（じゅるるっとなめる音）

「舌で、オークが舌で、おまんこ広げてくるう……!!」

「だめっ、粘膜に直接……そんな、敏感だから……あつ、あ……!!」

（じゅるるっとなめる音）

「は、激しい……!! お腹まで響くの、気持ちよくなっちゃうの、そんな……」

「ダメ、ダメ、吸わないええ!!」

(じゅるるつと吸う音)

「ひぎっ……!!」

「ぐっ、い、いやっ、我慢しないと、我慢しないとおおっ、き、気持ちよくなんて、きき、気持ちよくなんか……!!」

「あっ……あっ、いやっ、腰動いちゃう、腰が……ガクガクしちゃうう……!!」  
(じゅるるつと吸う音)

「まっ、まだ、いっぱい吸(すす)ってるの、おまんこ吸(すす)ってりゆうう!!」

「何か、おまんこに押しこまれて——し、舌が、入ってくるの!？」

「ううう、いやっ、まだっ、した事ないのに……舌で処女は……うううっ……!!」

「んっ、く……ふはっ!! ぬ、抜いて、くれた……?」

「はあああ、はああああ……オークが、顔あげて……」

「おまんこ吸うの、やめてくれた……ど、どうして……」

「あ、足もとで何かござこそしてる……何してるの……え?」

「う、うそちよつと……おちんちん放り出してる!？」

「そんな、お、大きすぎ……ガチガチに固そうなおちんちん……!!」

「ふ、太くすぎ……ひっ、い、いや……」

(倒れる音)

「か、髪掴んで押し倒さないで……!!」

「なにをするの、なにをするつもり……うっく、顎掴(あごつか)まれて……」

「くっ、いやっ、顔に……まさか口でしろって……」

「い、いや、おちんちん近づけないで……!!」

「ついちゃう、口に……オークのおちんちんが、唇についちゃう、そんな……」

「く、臭いのなんてやめて、口についちゃう、近すぎ、ついちゃうう……んくくッ!!」

「ぶっ、く……は、鼻つかまなれっ、息が出来なくて……」

「んっ、んううくくッ、ぷはあああ!!」

(フェラ音)

「んぐうう!？ ぶっ、ちゅ……ちよっほ、口に、ひやめっ、れっ……」

「んぶっ、ちゅっ、ぷ……!!」

//<<ここは口内に突っこまれてる感じで喋ってください

「ぢゅっ、ぶっ……ぶは! 口は、らめっ、いやっ……あっ、ぶううう……!!」

(フェラ音20秒)

//<<ここは口内に突っこまれてる感じで喋ってください

「く、口の中を、おちんちんが……か、かき混ぜて……ぢゅっ、ぢゅぶっ……」

「んっ、んううう……!!」

(射精音)

「ぶっ、おぶっ……えっ、けほっ！」

「うぶっ、口のつ、中に、だされっ、苦いの、ぶっ、えほっ……」

「気持ち悪い……飲んじやったあ……」

「く、口の中にまだいっぱい残って、おえっ……」

「粘ついて、なかなかはき出せない……う、うええ……」

「ぐっ、口元おさえないで……まさか飲めって、いうの……」

「こんな、苦くてマズイ物……く、くるしい、そんなに口おさえられたら……」

「んっ、ぐっ……ぐぶっ……」

「ぶっ、ぷは！ 飲んじやった、口の中に残ってた精液……飲んじやったあ……」

「汚されちゃった……私、オークなんかに……」

「え、足音が……すごたくさんの足音が近づいてくる……？」

「この足音はまさか……オ、オークの群れ！」

「すごい数のオークが……こっちにやってくる……！！」

「いやっ、いや、こんなたくさんのオークが……な、なにするつもり！？」

「私を取り囲んで——」

「ま、また腰突きだしてきて……おちんちんがすごく、大きい……」

「い、いや、さっきので終わりでしょ……」

「きゃっ！？ あ、足掴んでる、もしかしておちんちんを……」

「いや、処女を、いや、オークなんかに……ダメ、それだけはダメ……！！」

「うあっ……髪、また掴んで……ダメ、身体も抑えつけてくる……！！」

「やだ、やだあ、このままだと私、オークに犯されちゃう……いっぱい犯されちゃう……！！」

「あ、足はダメ、掴まないで……いやっ、足広げないで！」

「お尻をぐっと広げられたら……お尻の穴、まる見えになっちゃうう……！！」

（ぐちゅっど粘っこい音、挿入）

「うあっ……！！ お尻の穴に、指突っこんできたあ……」

「お尻の中に、指……ぐちゅって入ってくるう……」

「お、お尻にキュッて力入っちゃう……」

「オークがムリヤリ指を突っこんでくる、から……お尻が……」

「ふっ、あう……！ 弄（いじ）ってる、お尻に、指が深く突っこまれて……」

「な、中の腸粘膜を、ごりごり引っかいて……」

「あっ、い、いやっ、ダメ、恥ずかしい、恥ずかしい、お尻なんて……あっ……！！」

「あああああ……！ い、一気にいれないええっ！」

「お尻ダメ、お尻の、奥まで……そんな、指……指入れてぐりぐりしないで……！！」

「お腹の奥まで……子宮まで響くから、お尻の穴弄られたら……」

「ダメ、変になっちゃう……お尻が、あっ、ひ、広げてる……！！」

「お尻、そんなに弄（いじ）らないでっ、お尻広げて……」

「な、中見るような、ダメ……ダメっ、お尻から抜いて、指、抜いてええ……!!」

「ひううっ……!!」

「また、おちんちんを口に近づけて、いやっ、こんなたくさんのオークに、嬲られるなんて……!! う、ぐううっ……!!」

（フェラ音）

「ぢゅっ、ぐぶううっ……ぷっ、ぷは！」

「口の中に、また……んうう、すごく大きいおちんちんがっ、喉の、奥まれ……」

「んっ、ぐぶっ……!!」

「ぐっ、ごぼっ……!!」

「喉の奥でっ、いっばい、しごかれりゅっ、んぶっ、ぢゅっ……ぢゅっ、ぐぶっ……!!」

「ぶっ、ぷああ……!!」

「やめて、口も、お尻もやめて……いつ、あぶっ……!!」

「んっ、出される、口の中、精液出されちゃうう……!!」

（射精の音）

「んぐううっ!! ぶっ、ぷはぶっ!!」

「えほっ、飲んじやった、また飲まされちゃった、精液いっばい、口の中に出されちゃったああ……」

「けほっ、けほっ、もう……」

「やめて、こんな事される為に、しんがり引き受けたんじゃないの……んううっ!!」

（ぐちゅっ と 粘膜いじる音）

「あひっ、お尻が……ま、またお尻……ぐりぐり、してくる……」

「ダメっ、お尻、弄られたら……変になるから……お尻で、感じそうになるの……」

「やめっ、お尻の穴を弄るように、指を往復させないで……」

「ぐちゅぐちゅ、お尻の穴責められたら、身体が、熱くなってきちゃうう……」

「ううっ、ぐっ……いやっ、感じたりなんか、しないんだからああ……」

「ぐっ、お尻なんかれっ、ひっ、あ……やめっ、あっ、あ、あっ、あ……!!」

（ぐちゅっ と 粘膜いじる音、往復系）

「お尻、いっばい往復してる、お尻往復して、かき混ぜて……」

「指でいっばい、かき混ぜてくるの……」

「私のお尻が、い、いやっ、気持ちいいなんて、絶対、ないの……!!」

「ダメっ、こ、声でちゃう、気持ちよくて……」

「声出したら、もう、私、負けちゃう……声出したら、ダメ……ダメなの……!!」

「んっ、ん、ん……!!」

（ぐちゅっ と 粘膜いじる音、往復系）

「くっ、あああああ……!!」

「い、いやっ、お尻……いい、お尻気持ちいいのっ、お尻がつ、ダメっ……」

「お尻いじられて、こんな、か、感じちゃうなんて……私……」

「い、淫乱じゃないのにつ……ヘンタイじゃないのにいい……!」

「お尻は、ダメ、ダメっ、そんなところで、恥ずかしいのっ、感じちゃうの、お尻でいっばい、感じちゃうからああ……!」

（お尻から抜くような音、粘っこい音）

「んっ……くぷっ!？」

「お尻から、ゆ、指が……抜け、ふはああ、はああ、はああ……」

「お尻、弄（いじ）りすぎよ……こんなの、酷い……」

「で、でも、何とかしないと……このままじゃもつと酷い事をされるわ……」

「ううっ!? ちょっと、ダメ……おまんこに触らないで……ひっ!?」

「おちんちんが……す、すごく大きくなって、そ、それ……もしかしておまんこに……」

「いやっ、いや、誰か……こんなの、いやああ……!」

（挿入の音）

「ひぐっ……!! おまんこにいつ、入って……きた……あっ……!!」

「い、いたっ、痛いっ、無理に、しないでっ……い、痛いっ……!」

「ぐっ、いつ、一気に突っこまないで……裂けちゃう、おまんこ裂けちゃう……!!」

「い、痛いっ、奥まで……くるううっ……!!」

（往復する音）

「うっ、うっ、うっ、い、いや、おまんこを、かき混ぜてるっ、おちんちんが、奥まで……きてっ、きて……!」

（往復する音）

「おまんこ、擦られてる……押しひろげるように、おちんちんが、往復してるッ……」

「くっ、いやっ、かき混ぜられるの、気持ちいい……!」

（往復する音）

「固くて、すごく気持ちいいところまで、来てるううっ……!」

「やだっ、声……いっぱい出ちゃう……ダメ、出したら、ダメ……が、我慢しないと……!」

「ぐっ……き、きつい、気持ちよすぎて……我慢するのっ、きつい……!」

「んっ、あ……あっ、あっ……」

「い、いやっ、腰が、おちんちんが往復すると、腰動いちゃううう!!」

（往復する音）

「うっ、あ、あっ、あっ……音……」

「おまんこから、粘っこい音、してるのっ、かき混ぜられて、音が……」

「音、大きくなってくると、気持ちいいのが……い、いっぱいくるの……!」

「やっ、やだっ、あっ、き、気持ちいいの、おちんちんが、おまんこ擦るたび、気持ちいいのがとまらないのっ、おかしくなるっ、やだ、おかしくっ、なっちゃうう……!!」

「あつ、あ……おちんちん、大きくなってる、おまんこで、大きく……」

「んぐううっ……!! お、奥まで、一気に……おちんちん突っこんできて……」

「やめっ、中で……中でだしちゃっ、ダメえええっ……!!」

(中だしの音、射精音)

「んぐううっ!! でてるっ、でてっ、中で……おまんこの中に、出されてりゅううっ!!」

「いっぱい出され、てるっ、おまんこに……」

「あ、熱いっ、オークの精液が……だ、出されてるううっ……!!」

(中だしの音、射精音)

「溢れるの、おまんこにいっぱい、精液注がれてっ、お腹いっぱいになるっ、お腹いっぱいになっちゃううう……!!」

「あつ、あああああああ……」

(中だしの音、射精音)

「あつ、あ……まだ出てる……まだいっぱい……出てる……」

「子宮が、ぎゅるってなあって……き、気持ちいいなんてっ、こんな……」

「犯されてるのに気持ちいいなんて、く、悔しいのにつ、気持ちいいのとまらないの……」

「で、でも、これ以上、犯されるなんて……絶対嫌……」

「何とかしないと、こ、これ以上おちんちん突っこまれたら、気持ちよすぎて、本当におかしくなっちゃう……」

「ひっ……!!」

「い、いや、またおちんちんが……く、口に近づいてくる……」

「もうやめて、もう……無理、こんなの、嫌なのに……」

「私、犯される為にしんがり、引き受けたんじゃないのに……」

「これ以上されたら、本当におかしくなるから……本当に、ダメだっ……」

「え……? オークたちが、私から離れていく……?」

「ど、どうして……? もしかして助かった……?」

「どこか慌てた感じで走っていくけど……あっ!!」

「ま、また違う魔物が来たの……!!?」

「う、嘘でしょ、オークよりも巨大な、そ、そんな……そんな……」

「あれはオーガ……!!」

「人間の数倍はあるわ……あんな巨大な魔物までいるなんて……」

「そんな、私じゃあんな大きな魔物を相手にするのは……」

「ううっ、ち、近づいてくる……!!」

「早く、起きあがらないと……あっ!!」

(どさっと転がる音)

「だ、ダメ……足に力が入らなくて、起きあがる事が……」

「腕も震えて、これじゃ戦えない……」



---

「ど、どうしよう、オークどころじゃないわ、こんな相手にしたら殺されてしまう……」  
「ひっ……!! も、もうすぐそこまで来ている……!!」  
「け、剣さえあれば……剣さえ……!!」  
「あっ……あ、あ……む、無理……私に気づいて、こっちに来る……」  
「来た……来た……!!」  
「なっ、なに、大きな手を近づけて……」  
「もしかして、捕まえるつもりじゃ……」  
「うっ……!?!」

「い、いやっ、片足掴まないで、逆さまに……」

「っ、吊り上げられるっ、離して……離して……」

「やめて……私、オモチャじゃないのに……」

「逆さまにされると、だ、だめ……頭に、血がのぼって……」

「意識が遠のく……ああ……あ……」

「足を広げて……人形じゃないのに、うう……」

「お尻のにおい、嗅いでる……い、いや……お尻はやめて……」

「オークに責められて、まだ変な感じが残ってるから……」

「あっ……！ うあっ、お尻の穴に吸い付いてきた……！」

「吸ってる、お尻の穴を思いきり吸ってるうう……！！」

「いや、いやっ、じゆるじゆる音たててる……！！」

「うっ、ううう……！ お腹の、中身……吸われる感じ……！！」

「お尻の奥を吸引されると……子宮までキュッてなっちゃうう……！！」

「んっ……うあっ！？ 何かお尻に突っこまれて……し、舌！？」

「オーガの舌が……お尻の穴をこじあけてくる……！！」

「お、お尻の穴が、みちみち広がる感じが、ああ……！！」

「ムリヤリお尻広げられて……子宮のほうに、舌がごりごり押しつけてきてえ……」

「お腹の奥から、子宮をごりごり責められてる……」

「くっ、うああ……！ お腹の中、たっぷり舐められてる……」

「そ、そんなところ、舐められた事ないのに……」

「し、舌なんか入る場所じゃない、のに……オーガの舌がぞりぞり舐めて、くる……」

（激しく吸いあげる音）

「あ……あっ……！！ ふああっ……！！」

「い、いやっ、口押しつけてる、オーガの口が……吸いあげて、ううっ……！！」

「お尻から、中身……全部吸われちゃううう……！！」

「んっ、くはああ！ と、止まった、はああ、はああ、はああ……！！」

「離して、もう……お尻いじめないで……お尻は……」

「ううっ……！！？ あっ、おまんこにつ、今度はおまんこにいい……！！」

「ひぎっ……し、舌が、いっぱい責められたのに、おまんこに突っこまれる……！！」

「あっ……あっ、一気に、おまんこの奥に……突っこんでくる……」

「裂けちゃう、おまんこが……し、舌、太すぎ……！！」

「んっ、ぐっ、うああっ……！！」

（じゅぷっと往復する音）

「ひっ、あっ、あっ……いつ、ぎ……!!」

「お腹がつ、破けちゃう、舌がお腹の中でヌルヌル動いて、おまんこの粘膜じゅるじゅる舐めてる……!」

「だめ、おまんこめくれちゃう、かき混ぜられて……めくれちゃうう……!!」

「んぶっ……くっ、舌……抜かれっ、はああ、はああ、はああ……」

「し、舌でされるの、もう、嫌あ……」

「離して、もうやめて……ひっ、い、いや、今度はなに……」

「そんな、大きすぎるおちんちんは……」

「無理、無理いい!」

「絶対おまんこに入らないから、そんな……丸太みたいなおちんちん、無理、無理いい!」

「やめて、おまんこ裂けちゃう、お腹……」

「は、ハレツしちゃうう……ぐっ……!!」

「ぐっ、くっ……う、ぐううっ……」

「おまんこに、お、押しつけて……足掴んで、ひっ、引っ張らないで……」

「私、オモチャじゃ……あがああ……!!」

「おっ……ああ……おまんこが……ああ……む、無理……」

「広がらないか、らああ……ハレツ、しちゃう……」

「破けちゃう……お腹、破けちゃうう……」

「ひっ……!!」

「あっ……あっ、ああ……あ、が……」

「だっ、め……おまんこ、さけ、るううう……!!」

「うっ……ぐううう……!!」

「い、い、ぐううっ……あっ、ああああああ!!」

「ひっ、ぎ……おまんこがああああ!!」

「お、お腹がつ、裂けちゃう、さけちゃうううう!!」

「大きすぎ、大きい……!!」

「おちんちん、おおきっ、いい……あ、ぐぎっ……!!」

「うっ、ぶ……ぎゅっ……!!」

「あ、が……子宮、潰れ……るっ……お腹の中身が口まで上がっちゃう……」

「奥まで、突っこまれて……あ、ああ……あああ……」

「んっ……!! うっ、ぐ……んううう……!!」

「おまんこが、潰れひやうううっ、やめっ、ひっ……」

「あっ、かきませ、ないええええっ……!!」

(往復する音)

「いつ、しょんな、はげっ、し、しくっ……」

「ひっ、あがっ……っ、潰れちゃう、ゴツゴツした、おちんちんで……」

「私の、おまんこ、潰れ、ちやううううーっ!!」

(往復する音)

「あつ、あぎいいいつ……!!」

「きつ、きつつ、裂け、りゅううううっ……!!」

「ひつ、い……くっ……んぐううっ……!!」

「うっ、うっ、うぎっ……」

「いつ、いやっ、う、うごきつ、早く、あつ、あ……」

「いやっ……!」

「中に、中に、出さないでっ、お腹破れちやうう……!!」

(射精の音)

「うっ、ぶ……!!」

「精液が……し、子宮が破裂しちやう、だ、出し過ぎっ、子宮が……」

「お腹、お腹がああ……!!」

(射精の音)

「はっ、あっ……」

「あつ、ダメ、壊れちやう、精液が、子宮破って……」

「お腹の中に、溢れちやう……!!」

「くっ……ふはああああ……!!」

「はああああ、はああああ……も、もうやめ、て……」

「死んじやう、おまんこがあ……」

(往復し始める音)

「う、いぎっ……!?!」

「い、いやっ、抜かないで、また責めてくるっ、おまんこが……めくれて……」

「ひっ、あい……は、激しくしないで、これ以上強く、おまんこ責めないでええっ!!」

(激しく往復する音)

「うああっ!」

「っ、強すぎ、太すぎるの、おちんちん太くて、子宮が、ひっくり返りそう……!!」

「やめっ、て……も、もう……許して、許して、お願い、許してええっ……!!」

(射精の音)

「う、ぐうううっ……!!」

「まつ、また……でてっ、そんなに、たくさん……精液……入らないのにつ、中に……」

「い、いっぱい出されてるうう……」

(オーガの鼻息、満足げ)

「ふっ、はああああ……!!」

「はああ、はあああ、はああああ……も、もう許して、こんな……」

「丸太みたいなおちんちんになんて、勝てないよ……」  
「もう無理、誰か助けて……」  
「う、ぐっ……!! ぬ、抜いて、くれた……?」  
「よ、よかった……ようやく、解放される……」  
(倒れる音)  
(ずしんずしんという足音去っていく)  
「ぐっ……ううう……もう嫌……」  
「こんな目にあうなんて、しんがりなんて……言いださなければよかった……」  
「逃げなくちゃ……騎士団のみんなはきつと撤退できたと思うから……」  
「私、時間稼ぎ……成功したよね……?」  
「うっ、うう……」  
「こんなところで寝てたらダメだわ……」  
「はやく起きあがらないと……うっ……!!」  
「だ、だめ、身体に力が入らない……起きあがれないわ……」  
「身体中どろどろになって……」  
「え……今、粘っこい音が……この音はもしかして、触手の音……!?!」  
「さっき私を責めた、あの触手の……!?!」  
「ひっ……!!」  
「い、いや、触手が戻ってきた!?!」  
「そんなどうして……まさか、騎士団を全滅させて戻ってきたの……!?!」  
「そんな……そんな、私……頑張ったのに……そんなの酷い……」  
「ああ、それに……オークまで……血まみれの剣担いで戻ってきた……」  
「ああ……騎士団は……私はしんがり……つとめられなかったのね……」  
「ごめん、みんな……ごめんなさい騎士団長……私……役に立たなかった……」



6. サークル挨拶音声（購入者用）キャラづくりする必要なく、事務的に読んで下さい

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」

「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」

「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して」

「椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラックスした状態でお聞き下さい」

「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり」

「物にぶつかるなどして怪我などしないようお気をつけ下さい」

「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかず」

「スピーカーから大音量で本作品を再生した場合、あなたの人生に深刻な

問題を発生させる恐れがありますのでくれぐれもご注意ください」

「それでは、本編をお楽しみ下さい」

7. 体験版ダウンロードの案内音声

「体験版をダウンロードしてくれたのね。ありがとう！」

「私？ ふふ、私はこの王国の騎士様だぞ！」

「なんてね、偉そうに言ってみただけ、まだ騎士になったばかりなんだ」

「それでね、初めての任務、魔物の討伐に騎士団のみんなで攻め込んだんだけど……」

「どーーーーーも、形勢が悪くてね、今からみんなで撤退するわけ」

「私も活躍したかったんだけど、団長が『お前にはまだ早い』って言って戦闘に参加させてくれなかったんだ、それで後の方で留守番。気がつくともうみんなぼろぼろ。負け戦」

「私も参加したらもつといい結果が出せたと思うんだけどなー」

「もう勝てないから、これからみんなで撤退するの」

「それでね、私思ってたんだけど、みんながちゃんと逃げられるように、誰かが魔物を食い止めた方がいいんじゃないかな？」（ここから次第に興奮する）

「もし、その食い止めるのに成功したら、その人絶対出世できるよね！」

「しかも、魔物を全部倒しちゃったらさ、一気に騎士団長に任命とか！」

「こんなチャンス滅多にないよね！」（興奮するのここまで）

「これから団長に掛け合ってみるの。私がみんなを逃がすために、しんがりになって魔物を食い止めるってね！」

「この音声作品は、私が魔物を蹴散らして大活躍するお話になると思うわ！」

「体験版を聴いて、気に入ったら『駆け出しの女騎士が魔物の群れを食い止め出世を夢見るけど世の中そんなに甘くないお話』の製品版を買ってね！」